

第六十四回
帝國議會
貴族院

六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案特別委員會議事速記録第二號

昭和八年三月二十日(月曜日)午後三時九分開會

○委員長(侯爵大久保利武君) ソレデハ是

カラ開會イタシマス、本日ハ少年教護法ニ付テ御質疑ガゴザイマスレバ此法案ニ付テ願ヒマス

○子爵大河内輝耕君 本案ニ付キマシテノ政府ノ御意見ヲ大體伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(丹羽七郎君) 少年教護法案ニ

付キマシテハ、御承知ノ通り從來アリマスル所ノ感化法ヲ變ヘマシテ、此少年教護法ニ依ッテ不良ナル少年ノ教護ヲ致シ、從前ノ感化ト申シマシタ事柄ヲ更ニ適切ニ致シマシテ教護ヲ致ス、斯ウ云フ案ニナッテ居ルノデゴザイマスガ、感化法ハ御承知ノ通り制定セラレマシテカラ既ニ三十年モ經過イタシテ居ルヤウナ狀態デアリマシテ、其改正ヲ必要トスル現在ノ世相ニ鑑ミマシテ、改正ヲ致サナケレバナルマイト思ハレルヤウナ點ガアリマスルノデ、是ハ折角調査イタシテ居ルヤウナ次第デアリマス、然ル所今同此少年教護法案ガ提出セラレタノデアリマスルガ、少年教護法ノ内容ニ於キマシテハ、大體從前ノ感化法ノ取扱テ居リマス

ル所ノ對象タル所ノ不良ナル兒童ヲ對象ト致シテ居リマスルノデアリマスルガ、之ヲ教護イタス方法ト致シマシテ、從來ハ唯感化院ノ中ニ收容ヲ致シテ居ッタノデアリマスルガ、今回ハ之ヲ擴ゲマシテ更ニ教護院ノ外ニ適當ナル施設、若クハ家庭ニ委託ヲスルトカ、或ハ少年教護院ノ監督ニ附スルトカト云フ風ニ院內ノ教護ノ外ニ、院外ニ於テモ教護ノ目的ヲ達スル處分ヲ致サウト云フコトガイツデゴザイマス、ソレカラ又從來十分ニ行ッテ居リマセヌ所ノ少年ノ性能デアルトカ、性質デアルトカ、性格デアルトカ云フヤウナル點ヲ鑑別イタス所ノ機關ヲ設ケタイト云フコトニ相成ッテ居リマス、ソレカラ又實際院外ニ於キマシテ不良ナル是等兒童ヲ教護監督イタス爲ニ、少年教護院ト云フモノヲ置イテ之ヲ活動セシメテ、一面ニ於キマシテハ地方長官ノ補助トナリ、一面ニ於キマシテハ教護院ノ補助トナルト云フヤウナ活動ヲ致サセヤウト云フ趣意ニ相成ッテ居リマスノデアリマス、又從來任意ニ單ニ社會事業團體トシテ發達イタシテ參リマシタ所ノ私設ノ教護院ヲ、此法律ニ依リマシテ認可ヲスルト云フ制度ヲ設

ケマシテ、サウシテ此教護法ノ働キ、教護法ニ基ク所ノ働キヲサセル、斯ウ云フ制度ヲ立テヤウト致シテ居リマス、從來ノ私設感化院ハ感化法ノ關係カラ申シマスルト、府縣立感化院ニ代用セラレマス場合ノ外ハ、純然タル社會事業團體デアリマシテ、感化法ノ外ニ在ッタヤウナ狀態デアリマスガ、ソレヲ教護法ノ中ニ取入レルト云フコトニ相成ッテ居リマス、又ソレカラ一ツハ、從來國庫ガ感化法ニ依ッテ補助ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、感化院ヲ府縣ガ設立イタシタ場合ニ、其臨事費ニ對シマシテハ二分ノ一、經常費ニ對シテハ六分ノ一ノ補助ガ行ハレテ居ッタノデアリマスガ、本法案ニ於テハ臨時費ニ付テハ二分ノ一ト云フ目安ヲ從來ノ通りニ致シテ居リマスルガ、經常費ニ對シテ四分ノ一デ増額シタイ、斯ウ云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、以上ノ如キ點ガ重モナルモノデ、之ニ伴ヒマシテ、種々ノ異ッタ點ガゴザイマスルガ、大體今申上ゲマシタヤウナ重モナル點ニ付テ考ヘテ見マスルト、從來感化法ニ依リマシテ、不良ナル兒童ヲ感化院內ニ收容シテアッタダケ感化事業ヲ行ッテ居ッタノデゴザイマ

スルガ、是ハ是ダケデ宜イカドウカト云フコトニ付キマシテハ感化法ノ改正ト致シマシテ、政府ニ於キマシテモ色ミト考究ヲ致シテ居ル點ナノデアリマシテ、是ハモウ少シ擴張シテ、院外ニ於テモ適當ナル施設等ニ收容シ、或ハ必要ナル監督ヲ行フ方法ヲ設ケマシテ、モウ少シ廣ク感化教護ヲ行フノ必要ガアルノデハナイカト考ヘテ、其點モ考究イタシテ居ルヤウナ次第ナノデアリマス、從ヒマシテ此教護法案ノ精神ト致シマスル所ノ、趣旨ト致シマスル所ハ感化法ノ改正ニ付テ、政府ニ於キマシテ考究イタシテ居リマス所ト大體一致イタシテ居ルノデアリマス、唯政府トシテ茲ニ尙ホ考究ヲ要スルモノアリト考ヘル點ハ、御承知ノ通り感化法ハ從來少年法ト相違ンデ行ハレテ居ルノデゴザイマシテ、感化法ハ內務省ノ所管ニ屬シ、少年法ハ司法省ノ所管ニ屬シテ居ルノデゴザイマシテ、其間ニ於キマシテハ大體十四歳未満ノ不良ナル兒童ハ原則トシテ感化法ノ方ノ支配ノ下ニ置キ、十四歳ヲ越エマシタ方ノ不良ナル兒童ハ少年法ノ方ノ支配ニ置クト云フヤウナ立前ニ大體ナッテ居ルノデゴザイマスガ、本法ハ教護法

ヲ施行イタシマスル場合ニ於キマシテモ、

其原則ニ付キマシテハ何等變リハナイノデ
ゴザイマスルカラ尙ホ多少ノ其處ニ研究ヲ
要スル點ガアルノデハナイカト思フ點ガ一
ツ、モウ、一ツハ經費ヲ要スル點、即チ茲ニ新

シク少年鑑別機關ヲ設ケルトカ、或ハ一時
保護ヲ致ス所ノ施設ヲストカ云フヤウナ
コトガゴザイマスルガ、是等ハ法案ト致シ

マシテハ、例ヘバ第四條ニ「少年鑑別機關ヲ
設置スルコトヲ得」ト云フヤウニ書イテゴザ
イマシテ、是等ハ府縣ノ財政ノ許ス場合ニ

於テ漸次實行ヲ致シテ行クコトガ出來ルト
思フノデアリマスルガ、國庫ノ補助率ヲ六
分ノ一ヲ四分ノ一ニ上ゲルト云フヤウナ點

ニ付キマシテハ、尙ホ政府ト致シマシテハ、
考究ヲ要スベキ點カト存ズルヤウナ次第デ
ゴザイマス、以上申上ゲマシタ所、大體ニ

於キマシテ本法案ノ趣旨ト致シマスル所ハ
極メテ適切ナリト考ヘラレルノデアリマス
ルガ、右申シマシタヤウニ尙ホ考究ヲ致サ

ナケレバナラヌヤウニ考ヘテ居ル點ガ一二
殘ッテ居ルヤウナ狀態ニナッテ居リマス
○子爵大河内輝耕君 細カイコトヲ色ミ

伺ッテ置キタイト思ヒマスルガ、此際如何デ
ゴザイマセウカ司法省ノ方ノ御意見ヲ私ハ
伺ヒタイト思ヒマス、司法省ノ方ニ御出席

ヲ願ヒタイト思ヒマス

○委員長(侯爵大久保利武君) 内務省ノ政
府委員ニ何カ御尋ネノコトハ外ノ委員諸君
ニゴザイマセスカ

○大澤徳太郎君 只今ノ御趣旨ニ依リマス
ト、是ハ大體ニ於テ政府モ決シテ反對デハ
ナイ、サリ乍ラ御經費ノ點デ直チニ同意ヲ

表スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ風ニ諒解
シテ差支ヘナイノデゴザイマセウカ、ソレ
カラ其經費ト云フ問題ニ付キマシテ、從來

六分ノ一デアツタモノガ四分ノ一ニナルト
云フト、ドレ位國庫ノ負擔ニ於テ差異ガ生
ジテ來ルノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(丹羽七郎君) 御答ヘ致シマス
ルガ、直ニ本法案ヲ是認シ難イト申上ゲマ
シタ點ハ、一ツハ御話ノ通り經費ノ點ト、

一ツハ司法省所管ノ少年法トノ關係ニ於テ
尙ホ多少考究スベキ點ガアル、斯ウ云フ二
點デゴザイマス、ソレカラ經費ノ點ハ只今

御尋ネデゴザイマシタガ、經費六分ノ一ノ
補助ヲ四分ノ一ニ上ゲルト云フ點ト、先程
大河内子爵ノ御質問ノ御答ヘトシテ少シ申

上ゲ足りナカッタト思ヒマスガ、尙ホ其外
ニ少年教護院ヲ置クト云フヤウナ費用ガ、
之ヲ實行イタシマスト要ルト云フコトニ相
成リマス、ソレカラ從來トノ比較ニ於キマ

シテ費用ノ掛カリマス點ハ、兒童ヲ教護院

外ニ於テ收容ヲ致スト云フコトガ、是ハ漸
次行ッテ行クト云フ譯デアリマシテ、其點
ニ於キマシテ多少ノ經費ガ要リマス、ソレ

カラモウ一ツ異ナリマスルノハ此私設教護
院デゴザイマス、是ハ從來府縣立ノ感化院
ノ代用ヲ致シテ居リマシタモノハ道府縣ノ

感化院ト同様ニ取扱ヒマシタガ、從來ノ何
等代用ニナッテ居ラス所ノ私設ノ感化院ニ
付キマシテハ、單純ナ社會事業ノ助成等ハ

行ヒマシタケレドモ、其以外ニ於テハ補助
ヲ致シテ居リマセスデシタカラ、今回ソレ
ガ入りマスノデ其補助モ是ハ早速計上シナ

ケレバナラヌ金ニナルト思ヒマス、以上各
種ノモノヲ引クルメマシテ、是ハ非常ニ正
確ナ數字ヲ今申上ゲルコトハ難イト思ヒマ

スルガ、凡ソノ見積ヲ立テマスルト約二
十萬圓以內位ノ經費ガ増加イタスノデハナ
イカト思ヒマス、ソレハ國庫ノ方ノ經費ガ

増スノデハナイカト思ヒマス
○岡田文次君 私ハチヨット伺ヒマスガ、
今御話ノ點ト稍、同ジコトデスガ、從來感

化法ニ付テ不備ナ點、即チ改正ヲ要スルト
御認メニナッテ居ラタ點デ今回提案ニナッ
テ居ル此少年教護法ニ於テハ尙ホ滿タサレナ
イ、尙ホ此外ニモ改良シタイト云フヤウナ

點ニ御氣付キニナッテ居ル所ガアルナラバ、
伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(丹羽七郎君) 感化法ノ改正ニ
付キマシテハ、御承知ノ内務省ニ社會事業
調査會ナルモノガゴザイマシテ、其處大

體調査シテ改正事項ト云フヤウナモノガ一
應調査ガ出來タノデゴザイマスルガ、大體
ソレト、是ハ固ヨリ公ニナッテ居ル事項デ

アリマスルノデ、ソレ等ヲ參考ニセラレタ
結果ガ、大體從來内務省ニ於テ考ヘマシタ
ルコトハ、少年教護法案ノ中ニ、包含サレ

テ居リマスルノデアリマス
○子爵大河内輝耕君 司法省ノ御方ガ御出
デデゴザイマセウカ、司法省ノ御方ニ此案

ニ對スル御意見ヲ伺ヒタイ
○政府委員(木村尚達君) 此案ニ付キマシ
テ、司法省トシテノ意見ヲ申上ゲマス、此

法案ハ現在ノ感化院法ノ根本的ノ改正ダト
思ッテ居リマス、其處デ從來司法省ト致シマ
シテハ、現行感化院ヲ改正イタシマスストス

レバ、司法省トシテ、二三ノ點ニ付テ、深
ク考慮ヲ費サネバナラヌ點ガアルトシテ、
常ニソレヲ研究シテ居ル次第デアリマス

ガ、ソレハ先ヅ現行感化院法モ今度ノ教護
法案モ、共ニ親權ニ關スル制限ガ、地方長
官ノ自由裁量ニ依ッテ決セラレルト云フ點

デアリマス、其處デ現行感化院法ニ依リマシテモ、又本案ニ依リマシテモ、感化院等ニ或ハ救護院ニ收容スベキ不良少年少女ハ凡ソ三ツノ場合ニ限ラレテ居リマス、一ツハ適當ニ親權又ハ後見ヲ行フモノナキ場合ノ少年少女ト、ソレカラ第二、新權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ希望シタ場合、ソレカラ三ハ少年審判所ヨリ送致ヲ受ケタル場合、此三ツノ事項ニ限ラレテ居リマス、其處デ其第一ノ點デアリマスガ適當ニ親權ヲ行フテ居ルカ、居ラヌカ、又適當ニ後見ヲ行ウテ居ルカ、居ラヌカト云フ點ノ決定權ガ、行政官タル地方長官ニ任ネラレテ居リマス、ソレカラ第二號ニ於キマシテ、感化院ヘノ入院ヲ親權者又ハ後見人ガ希望スルト云フコトハ、一面ニ於キマシテ自己ノ親權ヲ拋棄シテ、他ノ人ヲシテ行ハシメルト云フ結果ニナリマス、從テ親權拋棄ト云フコトガ、眞ニ子供ヲ保護教育シテ貰ヒタイト云フ積リデヤッタノデアルカ、或ハ又煩ハシカラ感化院ニデモヤッテ置ケト云フヤウナ方法デ、サウ云フ積リデヤツカ、所謂親權拋棄ニ對スル是非ノ判斷ヲ、行政官廳タル地方長官ニ任ネラレテ居リマス、而シテ其地方長官ガ之ヲ決定スルニ至リマス手續ヲ見テ見マスルト、本案ニモアリマスル通り	學校長、市町村長、救護員若クハ、警察署長、是等ノ具申ニ依ルコトニナツテ居リマス、從テ其際ノ地方長官ノ是非ノ決定ハ、恐ラクハ此具申ニ依テ容易ニ決定セラレハシナイカ、無論地方長官モ宜ク考ヘテオリニナリマセウケレドモ、多數ノ事務ヲ處理シテ居ラレル地方長官ガ、現在少年審判所ガヤリマスヤウニ審判ヲ聞イテ鄭重ニ審判官自身ガ其是非ノ判斷ヲスル場合ト異リマシテ、多クハ其具申ニ基ク決定、即チ書面審理ニ基イテ決定セラレルノ慮レナキニ非ズヤ、然ラバ名ハ地方長官ノ決定ニ委ネラレテ居リマススケレトモ、事實ハ、警察署長、市町村長ト云フ人達ガ決定スルト云フ結果ニ陥リハシナイカ、サウ云フコトヲ實ハ處レテ居リマス、ソレデ親權ノ制限或ハ親權ノ放棄トフ云コトハ、司法省トシテハ可ナリニ之ヲ重大視シテ居リマス、現ニ民法ノ如キモ第何條カチヨット記憶イタシマセヌガ、子供ヲ懲戒所ニ容ルル場合ニ於テハ、裁判所ノ許可ヲ受ケテ之ヲ容ルルコトニナツテ居リマス、其懲戒所ト云フ場所ハ現在ハアリマセヌカラ、矢張り、感化院ノ送致ト云フコトニナリマスガ、之レニシマシテモ裁判所ノ許可ヲ受ケ、而カモ裁判所ガ許可ヲ與フルノニモ六箇月ヲ期	限トシテ居ルノデアリマス、然ルニ現行感化院法或ハ此救護院法ハ、一旦只今申シマシタヤウナ順序手續上依リ決定サレタコトガ、二十年デアリマシタカ、十八歳マデデアリマスカ、長キ期間サウ云フ所ニ收容サレ得ルト云フヤウナ事情ニナツテ居ル、ソコデ是等ノ事項ニ對シマシテハ司法省トシテハ、餘程慎重考慮ヲ要スル次第デヤナイカ、ソレデ苟シクモ感化院ヲ改正スレバ此重要ナル點ニ付テ深く考慮ヲ拂ツテ、何トカ親權ノ擁護ノ方面ニ付テ保證ヲ設クルノ必要ナキニアラザルカト云フコトニ付テ、今尙研究ヲ實ハ續ケテ居ル次第デアリマス、所ガ此救護法案ニ依リマスト更ニ少年鑑別所ガ設ケラレマスルシ、又保護委員ガ設ケラルルコトニナツテ居リマス、サウシテ此少年鑑別所又保護委員ト云フノハ、是ハ愈、感化院ノ方ノ内容ヲ改善スル上ニ於テハ必要ナ事項デアリマセウ、アリマセウガ、此法案ノ立テ方カラ見マスレバ、此少年鑑別所ト云フモノハ結局此法案ノ認メタル保護少年、即チ救護院ニ入レルカ、他ノ家庭ニ託スルカ、或ハ他ノ保護團體ニ託スルカ、或ハ保護委員ノ監督ニ附スルカ、ソレ等ノコトヲ選擇スル機關ダト想像イタシマスルガ、サウ云フコトニナリマスレバ、此少年	鑑別機關ナルモノガ結局ノ所主體トナツテ此保護方法ヲ決定スルト云フヤウナ結果ニ陥リハシナイカ、是等ノ點モ曩ニ申シマシタ親權ハ別ト致シマシテモ、如何ニ不良少女ト言ヒナガラ、其自由ニ可ナリニ強キ制限ヲ加ヘナケレバ、名ハ法デアリ、名ハ教育デアリマスガ、所謂學者ノ矯正教育ト云フモノガ行ハレナイ、從テサウ云フ矯正教育ヲ施ス場合ノ人權ノ擁護ノ點、又親權ノ重大ナル點カラ考ヘマシテ、此方面ニ於テモマア少シ法の保障ノ方法ヲ充タスノ必要ナキヤ、是モ私共司法省トシテハ深く是ハ考慮シテ居ル點デアリマス、ソレ等ノ點ニ付キマシテ、司法省トシテ未ダ確定シタ意見ヲ持ッテ居リマセヌ、今尙ホ調査研究中デアリマス、從テドウスルガ宜イ、斯ウスルガ宜イカト云フコトヲ此席デ申上グル譯ニハ參リマセヌガ、現行少年法ガ採ッテ居リマスヤウナ手續、犯罪少年ハ別デアリマスガ、犯罪ノ虞アル少年、即チ感化院ノ目的トスルヤウナ少年ト同ジデアリマス、斯ウ云フモノニ對スル取扱ニ對シマシテハ、只今私ガ申上ゲマシタヤウナ點ニ付テ、可ナリニ控ヘ目ノ態度ヲ採リ、又其手續ニ付テモ頗ル詳細ナ規定ヲ設ケマシテ、親權ノ保護及人權擁護ノ上ニ於テ十二分ノ注意ヲ
---	---	---	---

拂テ居ルノデアリマス、ソコデ今少年法ト

感化院法ト竝ベテ見マスレバ、一ハ親權及

自由保障ニ付テ非常ニ鄭重ナ取扱ヲシ、他

ノ方面ニ於テハ只今ノヤウナ多少考ヘサセ

ルヤウナ方法ヲ採テ居ルノデアリマス、而

モ少年法モ感化院法モ結局ノ所、少年少女

ノ感化教育、或ハ保護監督ト云フ方面ニ向

フ國家ノ二個ノ制度デアリマスシ、此間ニ

モ似寄タ制度ヲ必要トシ、又其間ニ深キ

連絡ヲ圖テ行クト云フ必要ガアリハシナ

イガ、サウ云フイロ／＼ナ點ヲ考ヘマス、

此感化院ノ根本的改正デアリマス此教護法

ニ對シマシテハ、今俄ニ同意ノ意ヲ表スル

譯ニ參ラナイヤウナ次第デアリマス、尙ホ

御質問ガ其外ニアリマスナラバ、事務當局

デアル保護課長モ參テ居リマスカラ、詳細

ニ御答スル積リデアリマス

○侯爵西郷從德君 少年法ノ方ハ大正十二

年カラ施行サレテ居テ、今日尙ホ實際行

ハレテ居ルノハ東京ト大阪ダケデ、名古屋

モ行ハレタカモ知レマセヌガ、サウ云フ風

ニ拂取ラナイモノデアレバ、是モ今出シタ

所デ只今御説明ニナッタヤウナ心配ノ數ニ

達スルマデニハ容易ナ歲月ヂヤナイカト思

ヒマスガ、如何デスカ

○政府委員(木村尚達君) 只今感化院法ノ

方ノ御話ハ、是ハ内務省ノ方ニ御譲リ致シ

マスガ、少年審判所ハ現在東京、大阪、サ

ウシテ其附近ノ縣ヲ支配シテ居リマスガ、

今年幸ニ豫算ノ御協賛ヲ得マシテ、名古屋

ニ立ツコトニナリマス、ソコデ殘ル所デ今度

ノ名古屋位ノ施設ヲシナケレバナラヌノハ

九州ダケデアリマシテ其外ハ機構モ小サク出

來マスカラ、是ハ司法省ト致シマシテモ近來各

地ヨリ少年法ノ實施ノ範圍ヲ擴張シテ吳レト

云フ希望ガ非常ニ多ウゴザイマスカラ、大

藏當局トノ交渉ニ入ラネバ果シテ實現ガ出

來ルカドウカ分リマセヌガ、明年モ後ノ殘

リノ場所ニ向テ少年法ノ實施區域ノ擴張

ヲ圖リタイト云フ、司法省ダケノ希望ハ有

テ居リマス

○政府委員(丹羽七郎君) 西郷侯爵ノ御質

問ノ中ニ、少年教護法ノ設備モナカ／＼全

國ニ行互ルノハ暇ガ掛カルノヂヤナイカ、

斯ウ云フ御尋モ含ンデ居ルヤウニ存ジマス

カラ、其點ニ付テ御答イタシマス、御承知

ノ通り申上ゲルマデモナイノデアリマスル

ガ、非常ニ多數ノ不良ナル少年ガ今日ノ世

間ニ居リマシテ、之ヲ何ントカ致シテ行カ

ナケレバナラナイノデアリマシテ、此多數

ナル不良ノ少年ノ中ニハ、極メテ年齢ノ

上ノ者モアリマスシ、極メテ幼少ナ者モア

ル、又其不良ナ情狀ノ極メテ著シキ者モア

リ、情狀ノ重キ者モアリマスシ、極メテ程

度ノ低イ者モアルノデゴザイマス、ソレデ

是等ニ對スル保護ハ、ドウシテモイロ／＼

ノ方法ガ竝ビ行ハレマセヌト、是等ヲ一ツニ

纏メテ參ルト云フコトハ非常ニ困難デアリ

マス、例ヘバ非常ニ惡イノト左マデナイ者

ト一緒ニ集メマスレバ、寧ロ左マデナイ

者ガ惡イ方ノ感化ヲ受ケル、齡ノ低イ者ト

齡ノ多イ者ト一緒ニ致シマスレバ、齡ノ

若イ方ハ齡ヲ取ツタ方ノ者ノ惡イ影響ヲ受

ケルト云フヤウナコトガイロ／＼起ルト考

ヘラレマシテ、其趣旨カラ從來此情狀ノ低

イ者ハ感化法ガ之ヲ取扱ヒ、情況ガ重ク年

齡ノ上ノ者ハ少年法ガ取扱フヤウニ相成

テ居ルノデアリマスルガ、少年法ノ施行ノ

方面ハ、只今刑事局長カラ御話ノ通りデア

リマスガ、感化法ニ關シマスル所ノ感化院

ハ、御承知ノ通り段々全國ニ行互テ居ル

ノデアリマシテ、道府縣立ノ感化院ノナイ

所ガ七府縣バカリアッタト記憶イタシマス

ルガ、其府縣ニ於キマシテモ、私設ノ感化

院ヲ以テ代用イタシマシテ、此目的ヲ達シ

テ居ルヤウナコトナンデアリマス、從ヒマ

シテ感化法ノ方デハ、感化院ノ設備其モノ

ト致シマシテハ、一通リ全國ニ行互テ居

ルノデアリマス、尙ホ是ダケノ設備デハ十

分ナル不良少年ノ手當ガ出來ナイ、斯ウ考

ヘラレルノデアリマス、此法案ニ於キマシ

テハ少年鑑別機關ヲ設ケルトカ、或ハ少年

教護院ヲ設ケルトカ致シマシテ、ソレ等ノ

モノノ適當ナル處置考究ヲシテ、之ヲ地方

長官ガ決メテ、何處ヘ預ケ、ドウ云ウ方法

デ教護イタスノガ適當デアルカト云フコト

ヲ十分ニ考ヘマシタ上デ、或ハ適當ナル施

設、或ハ家庭ニ預ケルトカ、或ハ感化院ニ

收容スルトカ云フ方法ヲ致スノデアリマス、

其爲ニ經費ヲ要スルコトデアリマスルガ、

其經費ハ大體各府縣ガ負擔ヲ致シテ、之ヲ

實行ガ出來ルト思フノデアリマス、唯國費

ノ方面ニ於キマシテソレヲ補助イタス關係

ガアルノデアリマスルガ、ソレハ先程御答

ヘ致シマシタヤウニ、年額二十萬ニモ足ラ

ヌヤウナ事柄デアリマシテ、先ヅ是ハ大藏

當局ノ方ノ考モアルコトト思ヒマスルガ、

左マデ多額ノ費用デハナイノデアリマスノ

デ、漸次是ハ行ヒ得ルコトダト考ヘテ居ル

ヤウナ次第デアリマス

○菊池恭三君 チョット伺ヒマスガ、感化院

ハ從來アルノハ其儘置イテ、新タニ教護院

ト云フノヲ拵ヘルト云フ御考デスカ

○政府委員(丹羽七郎君) 此法案デハ從來

アリマシタ感化院ハ是ハ此法案デ支配シ、此法案デ設立シタモノノ形ニ變テ行ク、從ヒマシテ從來ノ感化院ハ、此法案ニ依リマスルト少年教護院ト、斯ウナルヤウニナッテ居リマス

○菊池恭三君 今度ハ是ハ各府縣ニ強制的ニ拵ヘルノデスカ

○政府委員(丹羽七郎君) 從來モ各府縣ニハ感化院ト云フモノヲ設立サレテ居ッタノデアリマスガ、今度ハ府縣ハ少年教護院ヲ設置スベシト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマスルカラシテ、其附則ノ方ニ參リマシテ、附則ノ一番終ヒノ項ニ本法施行ノ際道府縣立感化院ノ設置ナキ道府縣ハ本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ少年教護院ヲ設置スルコトヲ要ス、今七府縣デアッタト思ヒマスガ、道府縣立ノ感化院ノナイノガ其處ニ五年ノ期限内ニ設ケル、斯ウ云フコトニナリマシテ、其外道府縣ノ感化院ノナイ所デアリマシテモ、今日ハ皆私設ノ感化院ガアリマスノデ、ソレガ本法ニ依ッテ動キマシテ、道府縣立少年教護院ガ出來ル迄ノ間、其私設ノ教護院ガ之ノ代用ヲスル、代用スルト云フ誤弊ガアリマスケレドモ、代用シタヤウナ形ノ働キヲナシテ行クコトニナッテ居ルノデアリマス

○細田安兵衛君 今迄ノ道府縣立感化院竝

ニ私設感化院ハ政府ニ於テ、何カ相當ナ取締トカ監督トカ云フモノヲ矢張りヤッテ居ルノデゴザイマセウカ

○政府委員(丹羽七郎君) 從來御承知ノ通りニ感化法ニ依リマシテ、從來ノ感化院ヲ監督イタシテ居ルノデゴザイマス、ソレハ道府縣立感化院竝ニ道府縣立感化院ノナイ所ノ代用感化院ヲ監督イタシテ居ルノデアリマス、ソレデ感化院竝ニ現在私設ノ感化院ガアル譯デアリマスガ、ソレニ付キマシテハ、社會事業施設トシテ一般ノ監督ヲ加ヘテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、ソレデ内務省デ感化事業ニ關スル各種ノ會議ヲ催ス時ニ於テハ、私設ノ感化院ヲ會同シテ意見ヲ徵スルトカ、或ハ必要ナル命令ヲスル、指揮ヲスルトカ云フヤウナコトハ致シテ居リマス

○細田安兵衛君 尙ホ伺ヒタイノデスカ、其私設、道府縣立ハサウ云フコトハナイノデセウカ、私設感化院等ニ付テ、何カ弊害ガアルトカ、所謂營利ノ目的カナンカデヤ、テ居ルヤウナ、何カ弊害ガアルヤウナ事實ハナイノデセウカ

○政府委員(丹羽七郎君) 今日ノ此私設ノ感化院ト申シマスノハ、申上ゲル迄モナク、一般ノ社會事業ノ中デモ非常ナ熱心家ガ

ヤッテ居リマスノデ、本當ノ人道的ニ、不良ナル子供ヲ何トカ保護ライタシタイ、斯ウ云フ考カラ中ニハ隨分、自分ノ財産ヲ其爲ニ無クスルト云フヤウナ熱心家ガヤッテ居ルノデゴザイマシテ、感化ノ方法等ニ付イテ尙ホ改善スベキモノガアルトハ考ヘマス、全部完全ニ行ッテ居ルトハ考ヘラレマセスケレドモ、今御話ノヤウナ弊害ガアルトハ考ヘテ居リマセス

○岡喜七郎君 私モチョット御尋シタイト思ヒマスガ、内務省ノ政府委員ノ御見解ニ依レバ、少年教護法ヲ實施スルト云フコトハ若干經費ノ關係ニ於テモ考慮ヲ要スル、其他ニモ尙ホ考慮ヲ要スル點ガアルガ故ニ、政府トシテハ直ニ贊成シ兼ネル、斯ウ云フ御見解ノヤウニ拜承シテ宜シウゴザイマスカ、又司法省ノ政府委員ノ御説明ニ依ッテ見マス、今日ノ感化法ニ於テモ所謂親權云々ノコトニ關シテ深ク考慮ヲ要セナケレバナラヌ、又研究ヲ遂ゲテ行カナケレバナラスコトガアル、今尙ホ研究中デアル、故ニ少年教護法ニ於テモ、同ジク其研究ヲ要スル事項ガマダ解決シナイカラ、暫ク其解決ノ付ク迄ハ兎モ角モ少年教護法ト云フ新タナルモノニ直ニ贊成シ兼ネル、斯ウ云フ大體御見解ト拜承シテ御差支アリマセヌデ

セウカ

○政府委員(丹羽七郎君) 只今岡サンカラノ御尋デアリマスルガ、内務省ト致シマシテハ大體先ニ社會事業調査會ニ於キマシテ感化院法ノ改正案ガ審議セラレテ、改正事項ガ其時審議セラレタノデアリマス、御承知ノ通りト思ヒマスガ此法案ハ大體其趣旨ヲ酌マレテ提案ニ相成ッテ居ルト認メラレマスルノデ、案ノ趣旨ニ對シマシテハ極メテ適切ナモノダト、斯ウ考ヘテ居ルヤウナ次第デ、只今申シマシタヤウニ經費ノ點ガ直ニ其經費ヲ増シ得ルト云フ點ニ付キマシテハ、何トモ御答ヲ致シ難イ點ガアルカト、斯ウ云フ考デアリマス、ソレカラモウ一ツノ點、考究ヲ要スルト申上ゲマシタノハ少年法トノ關係デアリマスルガ、ソレモ大體ニ於テハ此法案ニ於テハ考慮セラレテ居ルト思フノデアリマス、唯若干司法省ノ御見解モアルト思ヒマスルカラ、其點ハ内務省ト致シマシテハ御答ヲ留保イタシテ置キタイト思ヒマスガ、全體ノ案ノ趣旨ト致シマシテハ内務省ハ極メテ大切ナモノデハナイカト、斯ウ考ヘテ居リマス

○政府委員(木村尚達君) 司法省ト致シマシテハ、只今岡サンカラ仰セラレタ通りノ意見デアリマス

○岡田文次君 先程司法省ノ政府委員カラ

ノ御話ノ親權云々ト云フ點ニ付テ、司法省側カラト内務省側ノ兩方ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマスガ、今モ岡サンカラ伺フタ通り其點ハ感化院法ニ於テモ同ジコトダト思ヒマス、感化法ノ生レテカラ相當長イ年月ガ經テ居ルノデアリマスガ其間先程御話ノ御考ノ點ニ付テ是迄ノ實際經驗デ、大分弊害ガ實際ニアッタノデアリマス、ソレトモ是レ迄ハ特ニ弊害ヲ認メタト云フヤウナコトハ無イノデアリマセウカ、實際ノ御經驗上ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(木村尚達君) 内務省所管ノ方

デアリマシテ、實際ノ結果ヲ此方カラ特ニ調ベタコトハアリマセウカ、實際ドウ云フ風ニ行ハレテ居リマスルカト云フコトハ此處デ御答ヘスルコトハ出來マセヌ、唯少年法ヲ制定シマシテ以來、斯ウ云フ不良少年少女ニ對スル自由制限ノ方面、又親權ノ遮斷ノ方面ニ付キマシテ、更ニ考ヘネバナラヌヤウナ事情ニ到達シタノデアリマス、仍テ從來感化院法ノ改正ニ付テハ一二……二三、私ハ承知シマセヌガ先任者ノ傳フル所ニ依リマスルト、二三回内務省ヨリノ非公式ノ改正ノ御交渉ニ接シテ居ルサウデアリマスガ、其際ニモ今ノ親權及自由保障ニ

關スル點ニ付テ、兎ニ角司法省ノ意見ガ必

シモ内務省ノ方ノ意見ト合致スル迄行カナカッタヤウナ狀況ニ聞イテ居リマス、ソレデ尙クモサウ云フ行懸リモアリマシ、此感化院ノ根本的ノ改正ヲ致ストシマスレバ、今少シ食ヒ込ンデ内務省ト司法省ト協調ヲ保チ、深クソレ等ノ點ニ付テ協議ヲ遂ゲテ、サウシテ少年法、感化院法ガ何等ノ法的非難ナクシテ、併行シテ行ケルヤウナ方法ニ進メル方ガ宜クハナイカ、實ハサウ云フ考ヲ司法省トシテハ有ッテ居リマス、ソレデ今俄ニ此案ノ贊否ノ意見ヲ申上ゲラレナイ、サウ云フ立場ニアリマスカラ左様御諒承願ヒマス

○政府委員(丹羽七郎君) 岡田サンカラ親

權ノ制限ノ點ニ付テ、感化法施行以來既ニ三十餘年ニモナッテ居ルノデアルカラ、其間ノ成績カラ見テ弊害ガアルカト云フ御尋ネデゴザイマス、内務省ト致シマシテハ感化法ノ施行ニ當ッテ居リマスノデ、法律ニ定メマシタ所ノ重要ナル親權、後見ノ制限ニ付キマシテハ、慎重ナ態度ヲ以テ常ニ取扱ッテ居リマスルノデ、今日迄何等サウ云フコトニ付キマシテ弊害ヲ認メザルノミナラズ、實際關係シテ居ル親權者、後見人カラ苦情ノ出タヤウナコトハ聞イテ居リマセヌ、唯

非常ニ不良ナル少年ガ多數アルノデアリマ

シテ、是等ノ始末ハドウシテモ速ニ致サナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘマスル點カラシテ、是等ヲ一日モ抛ッテ置クト云フコトハ國家ニ害毒ヲ流ス原ナリト考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ本法案ハ幸ヒニ大體其缺點ヲ補ヒ得ルノデハナイカト思ッテ居ルノデアリマスシ、又親權ノ點ニ付キマシテハ從來ノ感化法ト別段異ナル規定モ含ンデ居ラヌヤウナ次第デゴザイマス

○岡田文次君 今ノ御話ハ能ク解リマシタ

ガ、現行ノ感化法ニ於テ第十三條ニ第五條第一條即チ今ノ親權ノ關係ガ載ッテ居ル、マア適當ニ親權ヲ行フヤ否ヤト云フヤウナ問題ガアリマスガ、第五條第一號ノ場合ニ於テモ第十三條ニ於テ訴願ヲ提起スルコトガ出來ルヤウニナッテ居リマスガ、是レ迄訴願ヲ提起シタ場合アルデセウカト云フコトガ一ツト、ソレカラ第十三條ノ中ノ「處分ニ不服アル者」トアリマスガ、此不服アル者ト云フハドウ云フ人ヲ言フノデスカ、親權ヲ行フ者トカ、實際ニ其處分ヲ受ケタル人トカ、或ハ後見者ト云フノニ限ラレルノデアリマスガ、ソレトモ亦第三者デアッテモ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトガ出來ルノデセウカ、ドウ云フ御取扱ニナッテ居リマセ

ウカ

○政府委員(丹羽七郎君) 只今ノ御尋ネノ

第一點ノ訴願ヲ提起シタ事例ガアルカト云フ御尋ネニ對シマシテハ、實際訴願ヲ提起シタ者ガナイヤウニ記憶イタシテ居リマスガ、御尋ネデアリマスカラ尙ホ調査ヲシタ上デ御答ヘ致シタイト思ヒマス、第二點ノ感化法第十三條ノ處分ニ不服アルト云フノハ、親權者後見人ヲ主トシテ指シテ居ルト思ヒマス

○大澤徳太郎君 チョット司法省ノ政府委

員ニ御尋ネシタイト思ヒマスガ、十四歲以上ノモノハ少年法ニ依ッテマア比較的能ク保護モ亦感化モ行ハレテ居ルト思ヒマスガ、所謂十四歲未満ノ子供連中ニ對シテ、現在ノ感化法ダケデハ十分其保護ナリ其教化ガ行ハレテ居ラヌヤウナ狀況ニ承ッテ居リマスガ、政府モ同様ニ御認メニナッテ居ルノデゴザイマセウカ、如何デゴザイマセウカ、ソレカラ此少年保護法案ニ對シマシテ先程司法省トシテノ御見解ヲ承リマシタノデアリマスガ、成程色々此法案ニモ不備ノ點ハ少カラズアルト思フノデアリマスガ、只今内務省ノ政府委員モ御話ニナリマシタヤウニ、不良ノ性質ヲ有ッテ居ル子供ノ數ガ段々増加シテ行クト云フヤウナ場合デアリ

マスカラ、一日モ早く矢張り此感化法ニ代
ルベキ適當ナ教護法ノヤウナモノノ設定ヲ
見ルコトガ肝要デアルノデハナイカト思フ
ノデスガ、假ニ此法案ニ色ミ不備ノ點ガア
ルトシテモ一時斯ウ云フヤウナ案ヲ御認メ
ニナ、テ、實施ノ上何カ其不都合ナ點ハ後デ
又御訂正ニナルト云フヤウナコトニ爲シマ
シタナラバ如何ナモノデアリマセウカ、今
一ツハソレモドウモ何カ御同意ガ出來ヌト
云フコトデアルナラバ、政府ニ於テ一日モ
早く適當ナ教護法案ヲバ今度ハ政府案トシ
テ御提出ノ御意思ガアリマセウカ、如何デア
リマセウカ、此三點ヲ一ツ御伺イタシタイ
○政府委員(木村尚達君) 御承知ノヤウニ
感化院法ハ主トシテ十四歳未満ノモノニ對
スル感化教育デアリマスガ、尙ホ例外ト致
シマシテハ親權者又ハ後見人カラ入院ヲ希
望シタ場合ニ於テハ十八歳迄ノモノヲ矯正
感化ガ出來ルコトニナツテ居リマス、サウシ
テ實際此十四歳以下ノ少年少女ニ對シテ感
化ノ方法ガ完全ニ行ハレテ居ルカドウカト
云フコトニナリマス、是ハ實ハ内務省ノ
施設ニ對スル批評ニナリマスカラ避ケタイ
ノデアリマスガ、唯併シ現在ノ規定ノ範圍
内ニ於テ斯ウ云フコトハ改善ノ上ニモ改善
ガ加ヘラレル方ガ宜シウゴザイマスカラ、

ソレハ矢張り適當ノ方法ヲ講ジラレルト云
フコトニ付テハ無論異議ノアルベキ問題デ
ハアリマセヌ、併シ先ニモ申シマシタヤウ
ニ、是ハモウ感化院ノ根本的改正デアリマ
スカラ是ガ一度通りマスト愈、通、タ後ニ惡
イ所ハ變ヘタラ宜イデヤナイカト云フ御意
見モアリマスケレドモ、無論ソレハ變ヘテ變
ヘラレナイコトハアリマセヌガ、サウ云フコ
トハ事實上ニ於テナカ、困難ナ問題デハ
ナイガラウカト想像イタシテ居リマス、殊
ニ今申シマシタヤウニ此感化院法ガ多少永
久性ヲ帶ビテ……出來マスルト永久性ヲ帶
ビマスガ、今ノ十八歳迄デモ親權者及後見
人ガ入院ヲ希望スル時分ニ十八歳迄出來マス
シ、尙ホ現在ノ少年法ノ施行ノナイ所ニ於キ
マシテハ、矢張り十八歳迄ノモノヲ矯正感化
ガ出來ルコトニナツテ居ル、現在ノ少年法ノ實
施ガ遅レテ居ルカラ其方ニ迄御手ヲ伸バシ
テヤツテ戴クト云フコトハ非常ニ結構デア
リマスガ、先ニモ申シマシタヤウニ此感化
法ガ出來タノハ非常ニ古イ時代デアリマス
カラ、從、テ其親權トカ身體ノ自由ノ保障
トカ云フ點ニ付テハ、餘リ考ヘガナカタモ
ノト想像シテ居ルノデアリマス、苟モ今度斯
ウ云フ法令ヲ改正スル以上ハ其點ニ付テ
ハ、餘程慎重ナ態度デ考究シナケレバ法ヲ

作ル上ニ於テモ甚ダ宜シクナイコトデヤナ
イカト、サウ云フコトヲ考ヘテ居リマス、
尙ホ序デデアリマスカラ申上ゲマスガ、先
程カラ私ガ憂慮シテ居リマス點ニ對シテ
ハ、訴願ノ途ガアルカラ差支ヘナイカト云
フ、一應ノ議論モアリマセウト思ヒマス
ガ、此親權ヤ身體ノ自由制限等ニ關スル不
服ノ途ヲ訴願ノ方法ニ依ルト云フコトハ、現
在ノ一般ノ法制ノ上カラ見マスレバ實ニ異
例デアリマシテ、斯カルコトハ無論ハ裁
判所ノ所管ニ歸スベキコトデヤナイカト
思、テ居ルノデアリマス、サウ云フ風ニ古キ
法案デアリマスガ爲ニ、其後發達シテ來マ
シタ各種ノ法制上ト間ニ調和ガ執レテ居ナ
イ、無論私ノ方ノ頭ト致シマシテハ、司法省ノ
考ヘマシタモノハ親權或ハ自由ノ保障ノ方
ニ相當ノ方法ガ案出サレマスレバ、十四歳
ノ感化院方面ニ付テハ出來ルダケ施設ノ改
善ヲシテ戴クトヲ希望スルノデアリマス
ガ、兎ニ角其根本ノ點ニ付テ解決ノツイテ
居ナイ法案ダト見マスレバ、何トシテモ此
法案ニ對シテ御贊成申上ゲル譯ニ行カナ
イ、最後ニ少年教護法案ヲ出スカト云フ御
話デアリマスガ、是ハ無論司法省所管デア
リマスセヌカラ、内務省ノ御意嚮ニ依ル外
アリマセヌガ、若シ假リニ明年デモ明後年

デモ、他日教護法案ノヤウナ内容ノ改正案
ガ出マストシマスレバ、司法省トシマシテ
モ、少年法トノ關係、只今申シマシタ親權
或ハ自由ノ保障等ノ點ニ付キマシテモヨク
御協議申上ゲマシテ、十四歳未満ノ不良少
年少女ニ對シテモ、或ハソレ以上ノ少年ニ
對シマシテモ保障ノ途モツキ、而モ其内容
モ兩者扞格スル所ナク施行スルコトノ出來
ルヤウナ法案ノ提案サレルコトヲ切望シテ
居ル次第デアリマス
○子爵大河内輝耕君 兩政府委員ニ質問イ
タシタイノデスガ、是ハチヨット速記ヲ止
メテ戴キタイト思ヒマス
○委員長(侯爵大久保利武君) ソレデヤ速
記ヲチヨット暫時中止シテ……
午後四時十四分速記中止
午後四時十四分速記開始
○委員長(侯爵大久保利武君) 速記ヲ始メ
テ……ソレデハ今日ハ是デ散會イタシマ
ス、次ハ二十二日午後一時半
午後四時四十五分散會
出席者左ノ如シ
委員長 侯爵大久保利武君
副委員長 岡田 文次君
委員 侯爵西郷 從德君

子爵大河内輝耕君

岡 喜七郎君

松村 義一君

菊池 恭三君

細田安兵衛君

大澤德太郎君

政府委員

内務參與官 勝田 永吉君

内務省警保局長 松本 學君

社會局長官 丹羽 七郎君

司法政務次官 八並 武治君

司法省刑事局長 木村 尙達君